

# 視覚障害者 音楽で交流

## 四街道 日韓の団体がコンサート

日本と韓国の視覚障害者が出演する「日韓交流あ」とひかりのコンサート2015」が6日、四街道市文化センターで開かれ、両国の計10組が歌や楽器演奏を披露して友好を深めた。

コンサートは同市や佐倉市などで福祉施設を運営する社会福祉法人「愛光」と、姉妹施設提携を結んでいる韓国の視覚障害者施設「ラファエルの家」の共催。両者は2002年に提携して以降、双方の施設を行き来して利用者による音楽交流会を開いてきた。今年と同法人の施設ではなく地域で演奏を披露しよう

と、同センターでの開催を企画。施設利用者が結成し



演奏を披露する「めいわ太鼓」のメンバー（6日、四街道市文化センターで）

たバンドや和太鼓グループのほか、視覚障害を持つ両国のプロ演奏者も出演した。

愛光の施設を利用する全盲の白井豊行さん(47)は、小学生から続けているピア

ノで2曲を演奏。楽譜は使わずにCDを聞いて曲を覚えていたという白井さんは、フルート担当の施設職員と2人で葉加瀬太郎さん作曲の「情熱大陸」を披露し、「互いの音を聞いて合わせるのが楽しい」と笑顔を見せていた。

韓国から来日したユ・ガッサンさん(71)はバンドでキーボードや打楽器を演奏し、「始めた頃は難しかったけれど、リズムを取るのが気持ちよくなって好きになった。観客も一緒に歌ってくれてうれしかった」と喜んでいました。

コンサートを聴いた千葉市の弱視の女性(78)は「目が見えづらいので、音楽が一番の楽しみ。みんな目が不自由とは思えない素晴らしい演奏だった」と話した。